

verde

「verde」とは、ポルトガル語で「緑の」という意味です。



ベルジ箕輪

ベルジ株式会社 有料老人ホーム ベルジ箕輪

発行責任者 総支配人 守田 昌史
支配人 高木 正幸

〒370-3104 群馬県高崎市箕郷町上芝 839-4
Tel 027-371-6610 / Fax 027-371-6613

E-mail minowa@e-verde.co.jp
URL <http://www.e-verde.co.jp>

(ホームページにてブログも更新しております。そちらも是非ご覧ください。)

8月の出来事

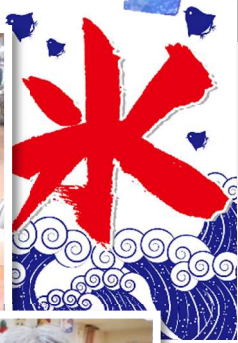
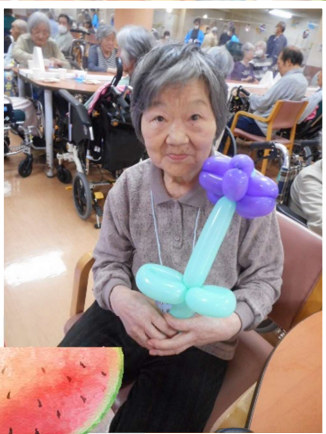
夏の最大の行事、納涼祭を今年は盛大に開催。今まで
は感染対策等で別館の皆さまとは、なかなかご一緒出来
なかったのですが、今年はベルジ箕輪の皆さまと一緒に
楽しむことが出来ました。午前中に行われた体操とじゃ
んけん大会。じゃんけん大会でのルールは3回勝った人
に景品釣りヘチャレンジする権利がゲットできるもの
で、皆さルール問答で後出しじゃんけんや、強制勝ち
残りじゃんけん、おもちゃの釣り竿で子供用プールか
ら釣り上げるゲームまで勝ち進み景品を勝ち取る、熱い
お祭りの始まりでした。

納涼祭

午後の部はお祭り屋台。各ブースに、射的ゲーム、豆
拾い、金魚すくい、カップゴルフを設け、中庭では焼
きそばやピザを焼きました。お箸を使って小豆を移
す「小豆拾い」は小さくて滑る小豆を別の容器に移す
というシンプルなものですが、小さな豆をお箸でつ
まもうとすると、逃げる様に転がる豆に四苦八苦し
ます。子供のお箸の練習にも流用されるこのゲーム
ですが、手指のリハビリとして高齢者施設ではよく
行われるレクリエーションです。小豆運びや豆つか
みゲームと呼称は様々で、誤って口に運んでしまわ
れても喉に詰まる心配が少ないことも安心して行え
る要因です。皆さまが同じように同じことを楽しめ
るのが理想なので、夏祭りを楽しんでもらえるよう
リスクヘッジがイベントにおける最も重要なポイン
トであり、苦勞する部分であります。

お祭りに欠かせない要素として、お祭りグルメがあります。
今年は「焼きそば」「かき氷」「ピザ」をご用意。メニューと
しては特別なモノではないのに、お祭りで食べると格別で、
皆さまもお昼ご飯を召し上がった後ですが「美味しいね」と
ペロリ召し上がられてしまう別腹グルメ。鉄板で焼けるソー
スの香りを嗅ぐと「お祭りだ」と思ってしまうのは、記憶を
呼び起こす『プルースト効果』なのではないでしょうか。

プルースト効果とは懐かしい記憶や当時の感情が蘇る
現象のことですが、実家に帰った時の匂いや、自分だ
けの特別な匂いでないときであっても「あっ、懐かし
い」そう感じる匂いがあります。祭笛の音色や、シャ
カシャカ削る氷の音、それもまた夏の記憶を開
ける鍵。「懐かしいね」「よく孫と行ってこん
なの食べたね」思い出話に花が咲きました。



お祭りのメインイベントはスイカ割り。
皆さまも目隠しをして果敢に挑みました。
木刀を振り下ろすので職員が安全を確保しながら
「右、左、もう少し右」と声をかけ、「あ〜」空
を切り、床を叩く木刀の音。「次は私！」手が上
がり「カラン」と音が続きました。自分でやるの
は無理だけどやりたいと希望された皆さまの代理
には職員が挑みました。「ここでいいですか？」
「もっと右」「ここですか？」「いやっ、もっと左」「ここ
ですか？」「もっと後」「ここでいいですか？」「いいわよ」「い
きます！」木刀で突くとスイカまであと5cm。「あんた下
手ね」と皆さま。厳しいご指導をいただきました。

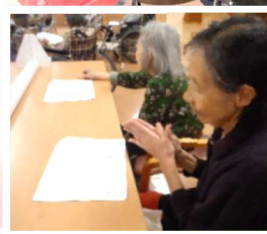


お祭りの締めは、もちろん盆ダンス。炭坑節
を踊りました。機能訓練士が手さばきし、足
を右斜め前に蹴り出し、両手を右斜しすくう
ような動作を2回行うのを「掘って掘って」
とジェスチャー。職員の腰のしっかり入った
「掘って掘って」に笑顔になる皆さま。
昔、やぐらの周りを踊った夏祭りのごとく見
様見真似で踊りながら「月が出た出た月が出
た、ヨイヨイ」と口ずさみながら腕を振り踊
る皆さまと、視線だけを合わせ「ヨイヨイ」
と手を打つ。盆ダンスで世界は平和になるよ
うな気がした。

篠笛演奏会

篠笛（しのぶえ）とは篠竹で作った日本の横笛
の総称であり、伝統的な木管楽器です。日本各
地のお祭り、神楽、獅子舞等の民俗芸能をはじ
め、民謡、長唄等、様々な音楽に使われてきま
した。邦楽器の横笛といえば、大別して雅楽用
の『竜笛』、能楽用の『能管』、そして、最も一般
的な『篠笛』に分けられます。篠笛は長唄をは
じめ歌舞伎囃子、祭囃子などの民族芸能すべて
において用いられ、現在まで日本人の心に響か
せてきた、神々しい音色の楽器です。

その澄んだ音色で奏でられる楽曲は、聞き馴染がなかろうが、郷愁さそう音色で
「一緒に歌ってください」と手渡された歌詞カードを膝に置き、涙を拭う皆さま
の姿。おぶわれた背中、繋いだ手、空襲から逃げ走ったこと、食べるものが無く
貧しかった日々、そんな記憶を脳裏に浮かべてしまう、そんな音色でした。音楽
は生きる事に不可欠ではないが、人と共にあるモノなのだと妙に納得させる時間
であり、久々のボランティア訪問に感涙する皆さまと職員でした。



みのわ情報



新米職員(特定技能)

ベルジ箕輪に新しい仲間が来ました。インドネシア出身のルットアブリエサセムビリングさん、略して「ルットさん」です。先にミャンマーからの特定技能実習生が活躍いただいています。日本でいうところの「大阪府民はせっかち」「福岡県民は情に厚い」のような国柄の違いは当然ありますので、文化の違いを理解しながら、ベルジの戦力として努めていただく所存です。

9月1日は防災の日。そこでベルジではBCP研修を行いました。BCPとは災害などの緊急事態における企業や団体の事業継続計画のことで、目的は自然災害やテロ、システム障害など危機的な状況に遭遇した時に損害を最小限に抑え、重要な業務を継続し早期復旧を図ることです。昨今、大雨であったり、地震の多発、災害が迫ってきているような不安も感じています。知識はチカラ、しっかり学びました。



編集後記

「しぐるるやしぐるる山へ歩み入る」日本を代表する有名な俳人「種田山頭火」が詠んだ作品。「しぐるる」は「時雨」を指し、冬を表す季語であり、現代風にいうならば「しぐれの中をしぐれている山の中へ歩いて行くよ」という、冷たい雨が降ったり止んだりする中を、雨で濡れている山の中を立ち止まらずに進んで行く孤独が詠まれているのだそうです。NHK 連続テレビ小説『虎に翼』の主題歌で、米津玄師が書き下ろした楽曲『さよーならまたいつか！』の歌詞でその言葉を知りました。金メダルを手にし栄華を極めた人でも、児童養護施設で育った人でも、どんな人生であれ、孤独は誰しもに在りうるのです。秋を迎え、雨の季節になり、雨に降られ「しぐるる」言葉がより胸に染み入ります。大人数の施設の中で自由に出来ないことを嘆く人も、身を任せて暮らせることに有難いと拝む人も、人の思いは様々。各々に望むものがあって、そこに馳せる願いが^{いま}あって、現在との相違によって、孤独を感じる。どんなに親切にされていても、それが希と違っていれば、孤独はそこに存在してしまう。「しぐるるやしぐるる山へ歩み入る」の詩にはそんな現状とリンクし、時代が変わっても人は変わらないことを知りました。抗ったとて、人は孤独を心に宿す。けれど「しぐるる」を知っているからこそ、優しさがその対極には存在している。助けることは己の助けに。願えば叶う。巡り巡るはそういうことなのだと思う。

